

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぼんはうすさくら伊丹稲野教室		
○保護者評価実施期間	2025年 8月 1日		2025年 9月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	2025年 10月 1日		2025年 10月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童一人ひとりの特性や発達段階を踏まえた個別支援を重視し、日々の関わりや記録を通じて小さな変化を丁寧に把握できている点が事業所の強みである。 職員間での情報共有を密に行い、支援内容や関わり方について共通理解を持ちながら支援にあたっている。	日々の支援において、子どもの「できた」「やってみよう」という気持ちを大切に、成功体験につながる声かけや環境設定を意識している。 また、支援後には職員間で振り返りを行い、対応の良かった点や改善点を共有することで、支援の質の向上に努めている。	今後は、職員一人ひとりの支援力向上を目的として、研修や勉強会への参加を継続するとともに、事業所内でのケース検討の機会を増やしていきたい。 あわせて、保護者との情報共有や連携をより丁寧に行い、家庭と事業所が協力しながら子どもの成長を支えられる体制づくりを進めていく。
2	児童一人ひとりの特性や発達段階を踏まえた個別支援を重視するとともに、十分な広さのある教室環境を活かし、安全面に配慮しながら落ち着いて活動できる支援環境を整えている点が事業所の強みである。		
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の経験年数や得意分野に差があり、支援方法や対応の統一に課題を感じる場面がある。	支援、送迎、事務作業など業務が多岐にわたり、時間的余裕を確保しにくい体制となっていること。	短時間でも振り返りが行えるよう、ミーティングの実施方法や頻度を見直し、計画的な時間確保を行う。 ケース検討やOJTを通じて、支援方針や対応方法の共通理解を深め、職員の支援力向上を図る。
2			
3			